

子ども会（学習会）だより

MY SKY No.17



1997年9月9日火曜日発行（毎週火曜日子まぐれ発行）

発行者

板野中学校

学習会

編集・文責：吉成正士

9月1日は防災の日でした。「関東大震災が起こった日を忘れまい」と、決められた日です。私は関東大震災と聞くと、必ず在日韓国朝鮮人のことを思い出します。大震災が起こった当時、まことしやかにこんな噂が流されました。

「朝鮮人が、井戸に毒を投げ込んだ！」

当時まだ日本には水道が整ってなく、井戸水で生活をしていました。水は生活の源です。その水が、朝鮮人のせいで飲めなくなると信じ込んだ日本人は、自警団なるものを組織し「朝鮮人狩り」を始めたのです。むごく、ひどい仕打ちを行いました。何の罪もない多くの朝鮮人が、命を奪われました。しかし貧困の中で共に助け合ってきた被差別部落の人々は、我がことのように悔し涙を流したといえます。当然「井戸に毒を……」なんていうのは嘘です。「自分以下を求める心」が、こんな噂を流させたのかもしれません。

9月1日＝防災の日。それもいいと思いますが、同時に、悔し涙を流した人々の思いも語り継いでいかねばなりません。二度と同じような過ちをしないように努めるのは、私たちからです……。



☆ NEW?全体学習、再スタート!!

1学期に、校内でいろんな問題点が出てきました。靴やスリッパもそうですが、こんなこともありました。

今日、昼休み友達と話をしていると、急に上からつばが落ちてきて、そのときはつばじゃなく鳥のフンかと思いました。けど見てみると、誰かのつばが落ちていました。『私何かしたっけ?』と、本当に平気でつばを捨てる人がいるんだと、すごく涙がこみ上げてきました。けど、いつの間にか友達があたたかくしてくれたうれしさに、涙が出ていました。5時間目が終わったら、E組のMさんが、「Yいけるで。別に気にせられんよ!」と勇気づけてくれました。すごくうれしかったです。

つばが落ちてきたときの気持ちは、『どうして私のところに落としたのか! どうして平気でつばが吐けるのか! 差別やいじめに対して怒りを持たない、卑屈な人だ!』と思

いました。でも私は、みんながいたから、すてきな友達がいてくれたから、こんなに立ち直れたんだと思います。やっぱり自分がひどい目にあわないと、その人の気持ちは分からないんだと思います。

Tちゃんが、「明日私も制服半袖^{はんそで}着てきてあげるな」と言ってくれたとき、すごくうれしかったです。そして、本当に『卑屈な人間にはなりたくない』と思いました。

そして、そのとき彼女の近くにいた友だちは、次のような生活ノートを書いています。

上からつばのようなものが落ちてきたとき、私は「アッ!」と思った。そのときは、Yもビックリして何も言えなかったのかな?少ししてから泣いてしまった。『こんなことしたん誰な!』と思った。そのとき私は『されんでよかった』とは思わなかった。Yと同じ気持ちになって、泣きなくなってきた。『なんでこんなことされなあかんの?何か恨み^{うら}でもあるんだったら、きちんと言ってくれなわからんわ!』と思った。その人は服めがけて落としたのかもしれないけど、Yの服にいっぱいついてた。本当に許せない!

でも『なんて惨め^{みじ}なやつな!』とも思った。中学校に入ってちょっと慣れるまでは、『怖いところなんだろな』という心配で胸の中がいっぱいだった。でも、この頃は『いい先輩ようけおるけんいける』とか思えてきたのに、せっかく落ち着いてきたのに、やっぱりいい人ばかりでない。私の思っていたとおりの怖いところというイメージが広がってきた。それと一番許せないのは、やっぱりやった人だ。『何もしてないのにやったのか?それとも何かあったのか?』と思う。何かあったとしても、きちんと言ってくれないとわからない。バスケの先輩はきちんと言ってくれて、それで初めて気づける。でも、何かあったからといってしていいことではない。人を傷つけて楽しがっているとしたか思えない。こんなことをやる人は、自分も周りの人も大切になんかできないかわいそうな人間なんだ。早く自分のしたことに気づいて自分を変えてほしい。

ひどいことをする人がいるものです。そしてその人も、このMY SKYを読んでるんですよ。なんか、無力^{むりょく}さを感じます。でもこんなことは氷^{ひょうざん}山の一角^{いっかく}で、他にもいろんないたずらをされた人がいると思うんです。本当になんとかしたいと思います。

「生徒たちの望んでいない同和教育や全体学習、学習会を、どうしてする必要があるのか!」という一部の大人^{おとな}の声があります。でも、それなら他教科の学習もたくさんやめなくてはなりません。子どもたちの望んでいることだけをやるのなら、それは自由ではなく、^{ほうにん}放任となってしまうのではないのでしょうか。

私たちは、これから社会の^{あらなみ}荒波で生きていく子どもたちに、^{いぬ}生き抜く力をつけさせなければなりません。そのためには、^{がくれき}学歴社会に負けないようなたくさんの^{ちえ}知恵が必要なのだと思います。国際化社会となっていくなら、なおさらです。当然、教科学習も「読み・書き・そろばん」程度は必要だし、人権感覚はなおさら求められます。

全体学習が燃えだしてきた時代に、やはり校内のいたずら、いやがらせ、いじめなどの^{みじち}身近な生活を取りあげ、^{うった}訴え、同じ立場の生徒同士がつながってきた記録があります。

今まさに再び、私たち全員が原点に戻り、全体学習を通してすべての人が気持ちよく暮らせる世の中を考える^{しゅんかん}瞬間にきているのではないのでしょうか。ただそのためには、本当に多くの仲間の力が、また熱が必要となってきます。どうですか、あなた？その一人になってはみませんか？いじめ、いたずら、いやがらせは、差別問題と同じ根っこを持っています。これらの問題を通して差別問題を、部落問題をみんなで考えていきませんか？本当は誰だって、楽しく笑顔で暮らしたいはずなんだから……。



文化祭はどうでしたか？勉強になりましたか？お祭りとして楽しむのと同時に、文化的な学習を発表し合い、学び合う場でもあります。どうでしたでしょうか……？

『さまざまな体験をすることが大切だ』と^{さけ}叫ばれるようになりましたが、まさにそんな機会だったように思います。これからもいろんな秋が続いていきますが、心が^み満ち^{あふ}溢れるような季節をすごしてみましようね！

★ ☆☆ ★★★ ☆☆☆ ★★★★★ ☆☆☆ ★

9月9日(火) 二学期学習会開始

12日(金) 「同和教育・部落問題」勉強会(19:30～; 郡頭教育集会所 テーマ「教科書無償運動」について)

14日(日) 羽曳野中学校中学生友の会交流会(13:30～; 板野町総合センター)

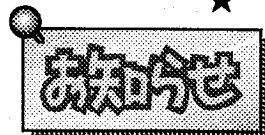
15日(月) 第8回手話まつり(10:00～; 吉野川遊園地 フリーチケット1800円吉成まで)

18日(木) 第1学年第2回全体学習(1年B組「部落差別をはねのけた、光り輝く園い」)

18日(木)～21日(日) 2年生修学旅行(中国・九州地方)《22日(月)代休》

19日(金) 「同和教育・部落問題」勉強会(19:30～; 郡頭教育集会所 テーマ「教科書無償運動」について)

★ ☆☆ ★★★ ☆☆☆ ★★★★★ ☆☆☆ ★



以前P T Aの会で話をしていたとき、「同和教育の会に行けるなら行きたいとは思うんだけど、いつあるのかわからない」と保護者の方に言われたことがありました。うれしいことです。結構他の町では、P T Aや地域の方々も参加しているので、板野町もそうなればと思っていたのです。そこで、今年度予定している研究大会のお知らせを、しばらくの間してみようと思います

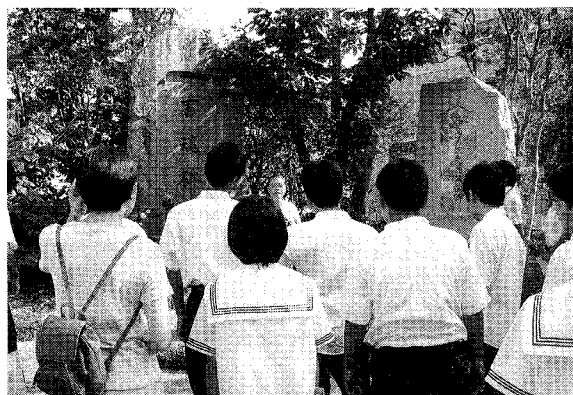
ので、行ける方、興味ある方、ぜひ一緒に参加してみましょう！きっと何かが得られると思いますよ！

詳しくは、中学校の阿部または吉成までご連絡ください。

10月14日(火) 板野町同和教育研究大会「小学校部会」(13:30～；板野東・西・南各小学校)
10月15日(水) 第4回板野中学校同和教育研究大会兼板野町同和教育研究大会「中学校部会」(13:30～)
10月16日(木)・17日(金) 第48回徳島県同和教育研究大会(文化センター他)
10月18日(土)～20日(月) 部落解放第31回全国集会(アスティ徳島他)
10月22日(水) 第27回中学校同和教育研究大会(相生中学校)
10月24日(金) 文部省指定同和教育研究大会(三好中学校)
11月6日(木) 第41回板野郡同和教育研究大会(吉野町)
11月29日(土)～12月1日(月) 第49回全国同和教育研究大会(熊本県)



今年の春に、同和教育啓発資料として「講演会録」をいただきました。4名の方々の講演記録なのですが、その中で、ぜひとも読んでほしい文章を目にしました。1学期の和田さんに続いて連載してみようと思いますので、続いて読んでみてください。



学習会県外視察（「むかい南食ミートセンター」）（97. 8. 29）



学習会県外視察（「リバティおおさか」にて
木村美代志さんと）（97. 8. 28）

同和教育講演会録

『私の歩んできた道 ①』

ただいま紹介にあずかりました、愛媛県上町のSでございます。

同和教育の進んでいるこの徳島県で、話のできるほどの者ではありません。昔から低い身分だとされ、差別によって長い間惨めな思いをしてきた、そうした場所では生まれませんでした。そのことが、現在に至るまで職場で、また社会でどうかかわってきたのか、どのような生き方をしてきたのか、これまでの私の生きざまを述べてみたいと思います。差別にあった者が、また学校でいじめにあった者が、どんな思いで過ごしているのか、それぞれの立場で考えていただく時間になれば、うれしく思います。話の内容には、まとまりのない点が多々あると思います。どうか皆様方で整理、理解していただくことをお願いいたします。

『私の歩んできた道』……昭和三十一年に中学を卒業いたしました、家事の手伝い、農業をすることにいたしました。進学をするよう先生から勧められておりましたが、貧しい家の事情で上の学校に行くことはできませんでした。米を作り、麦を作り、小さな畑にはイモを作りました。

そうした農作業の合間に、土木の仕事にも通いました。一緒に汗をかきな

が土木の仕事をする中で、まわりの大人たちのいやな差別の言葉にさらされるようになってきました。

『貧しいから、貧乏だから差別されるんだなあ』

中学を出た当時の私はそう思いました。『ならば金をためよう。金をためることで、金持ちになることで差別されなくなるのなら、どんなことを我慢してでも、まず金をためよう』

そういつた考え方になっていったころ、自衛隊が募集していることを知りました。昭和三十三年、十八歳になったとき、私は自衛隊に入隊いたしました。善通寺の教育部隊で六ヶ月教育を受け、そして配属されたのが、愛媛県は松山の部隊でした。訓練は厳しい毎日ではありましたが、今までの貧しい生活から見れば、訓練がいくらか厳しくとも、私にとっては天国のような思いがしました。食べるもの、着るもの、寝るところ、何一つ不自由しませんでした。友だちもたくさんできました。計画どおり金もためることもでき、私は楽しい自衛隊生活を送っておりました。

そうしたある夜のことでした。消灯ラッパを速くに聞きながら、私は眠りに誘われていたときでした。酒に酔って外出から帰ってきた先輩が、部屋の中で騒ぎ始めました。

「この中隊にエタがおるぞ、エタ起き

ろ」

何度も何度もそう騒ぎながら、そして私の寝ている枕元へもやってきました。

そこで、私にとつて一番いやな言葉を言いふらししました。私はベッドの中でどうすることもできず、ただ小さくな

って寝たふりをしておりました。しばらくして、当直の方がその人を連れていきました。私はホッとしたしました。部屋はまた静かになっていきました。が、私は眠れませんでした。

この時ほど、自分の生まれた故郷を恨んだことはありませんでした。私を生んでくれた母親も恨みました。

『しかし、私は部落に生まれてしまつた。これは、もうどうすることもできない私の運命なんだ。そこで生まれたことで、いやな思いをしたり差別されるのは、これはもう仕方がない私の宿命なのだ。そこに生まれた私が運が悪かつたんだ』

自分にそう何度も言い聞かせましたが、涙がとまりませんでした。先輩から差別発言を受けても、どうすることもできませんでした。

『今に見ておれ。今に見ておれ……』私はその言葉を心の中で何度も何度も繰り返しておりました。まんじりともしない一夜があけたその翌日、私はその先輩に顔を合washしました。なにくわぬ顔をしている。私は昨夜の涙を思い出しました。

『このまま泣き寝入りをするもんか。きつと見返してやる。何かの面で勝つてやる』

私は改めて心の中でそう決心しました。

自衛隊ではその頃、銃をもって訓練をする射撃の種目と、体に防具をつけて体力をつける銃剣道、野山を駆け巡る持久走、この三種目は重点的に行われておりました。先輩より体の小さい私は、さほど体力を必要としない銃をもって訓練する射撃の種目を選びました。自衛隊での射撃の種目の中には重機関銃、小銃、拳銃の種目がありましたが、私は拳銃の種目を選びました。

人と同じ訓練だけでは、勝つことができない。訓練の後、人が遊んでいるとき、余計練習をする。これしか勝ち目はないと思いました。一日の訓練が始まるまでの朝の時間と、訓練が終了した五時以降の時間、私は一人で練習をしました。同僚は夕食の後、風呂に入り、売店でコーヒーなどを飲んで楽しんでいるときも、私は一人でずーっと練習しました。雨の日も風の日も雪の日も、休みませんでした。つらかったのは、冬になり銃を持ったその手が寒さでかじかむことでした。そういうときはいつも、

『今に見ておれ。今に見ておれ……』自分にそう言い聞かせ、励まし、休むことをしませんでした。